

大文字

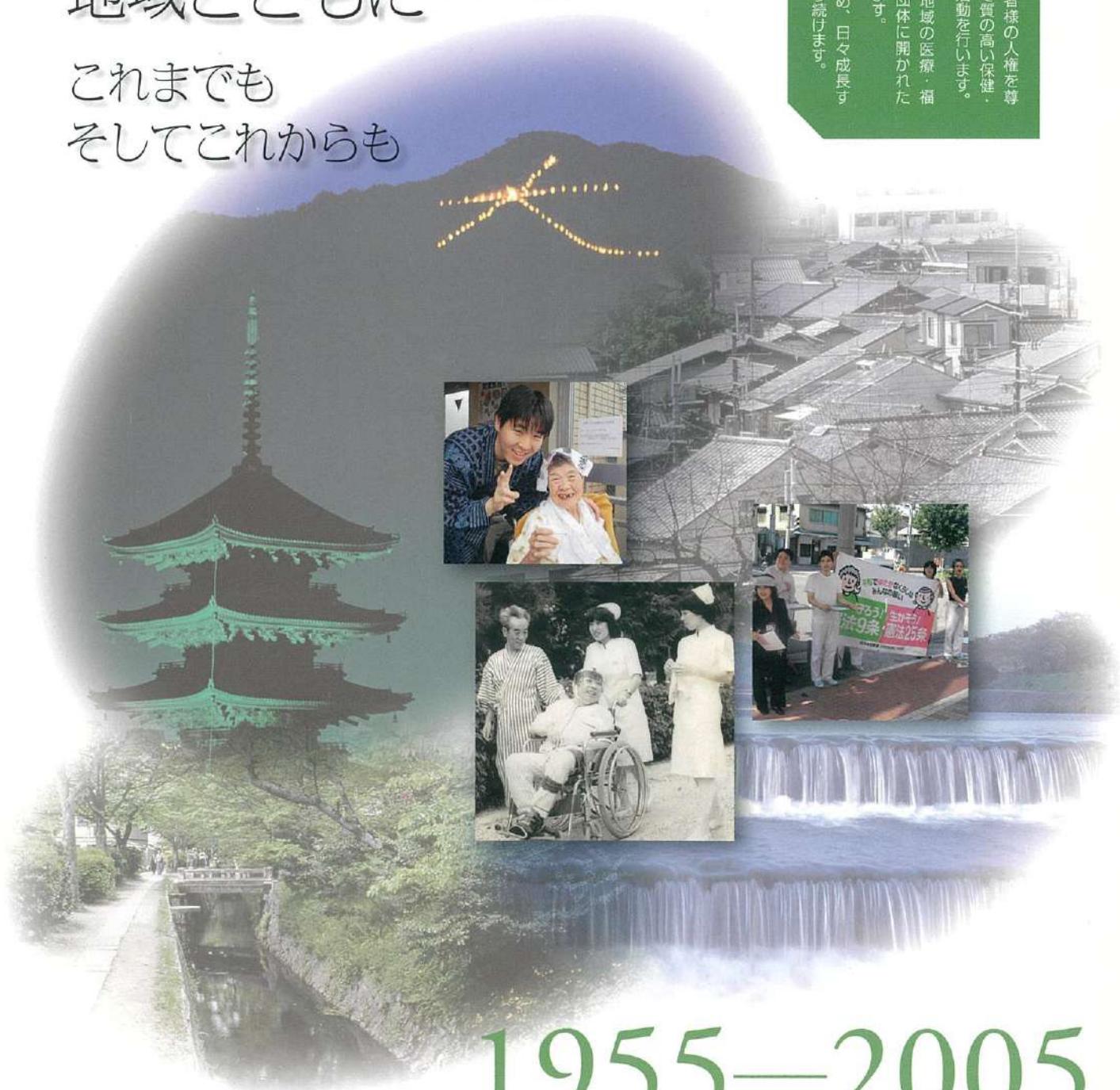
地域とともに――

これまで
そしてこれからも

創立50周年 記念号

病院理念

1. 患者・利用者様の人权を尊重し、安全で質の高い保健・医療・介護活動を行います。
2. 地域住民、地域の医療・福祉機関、諸団体に開かれた活動を行います。
3. 学習につとめ、日々成長する組織であります。



1955—2005



安井病院 — 京都民医連第二中央病院

Message

社会変革の伝統を 受け継いで

一連携を重視し地域の健康を守ります



京都民医連第二中央病院
院長 門 祐輔

本院は今年50周年を迎えることができました。これも地域の方々や「健康友の会」、諸団体、医療・福祉機関の方々の支えがあつてのことです。心からお礼を申し上げます。

本院は安井信雄初代院長が「いつでも、どこでも、だれもが安心していい医療が受けられるように」と開設し、その後増床を重ね、1997年からは京都民医連第二中央病院と名称を変更し現在に至っています。

この50年間の医療技術の進歩はめざましいものがあります。私たちにはこうした進歩を積極的に導入し、日々の診療に活かしてきました。今は一つの医療機関ですべてのことを行う時代ではありません。地域の医療・福祉機関と連携し、地域全体で、

安全で安心できる医療や介護を提供できるよう全力を尽くしていきたいと思います。

一方で、日本の医療・福祉・社会保障制度は大きな分岐点に立っています。「市場原理」「競争」「効率」を重視した「格差社会」をさらに拡大するのか、「安全・安心」「共生」「一人一人が大切にされる社会」をめざすのかが焦点です。國のあり方そのものが問われているのです。

この50年間の医療技術の進歩はめざましいものがあります。私たちにはこうした進歩を積極的に導入し、日々の診療に活かしてきました。今は一つの医療機関ですべてのことを行う時代ではありません。地域の医療・福祉機関と連携し、地域全体で、

Message

ときどき 「時に初心忘る べからず」



第二中央病院健康友の会会長

有吉 孝雄

第一中央病院創立50周年、おめでとうございます。健康友の会会員の皆様とともに、また安井病院時代よりの古き患者の一人として、患者の皆様とともに、心よりお祝い申し上げます。

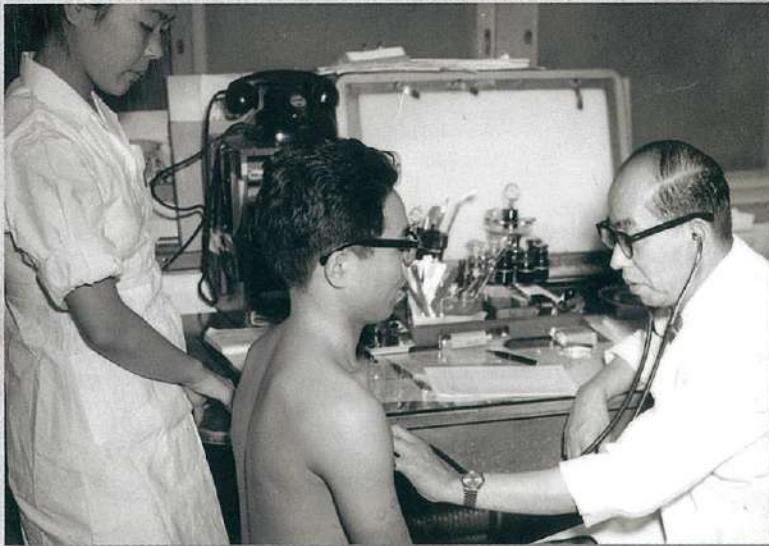
半世紀の長い間、地域住民の命と健康を守る砦として、私たちに安心と安全を与えてこられたこと、厚く感謝いたします。これは創立者安井信雄先生の「患者の心によりそう、患者に最善の医療を」の精神が、歴代院長先生の下に全職員に徹底し、一人一人が大切にされる「社会変革」が求められます。本院開設の原点に立って、職員一同努めていきます。今後ともよろしくお願ひいたします。

健友の会は、現在の南館建設當時、建設協力金募集運動の中から、1977年に生まれ、職員の皆様方のご協力があつたからこそ、現在の活力を得ることができました。「体の健康」「心の健康」「社会の健康」「平和」を銘に、友の会も安心して住み続けられるまちづくりをめざして頑張ります。



前史

(安井医院時代)



市会議員選挙に立候補



安井信雄初代院長



左京区田中南西浦町
的場 ヒサ

終戦後、服も何もかもお米に替えてただ生きていいくのが精一杯でした。そんな昭和21年の春、娘が熱が下がらず呼吸がおかしくなりました。でも着のみ着のまま病院に行くお金なんてとうていありません。兄の「安井さんは貧乏人の味方やで」という言葉を頼りに安井医院の戸をたたきました。「どうしたんや」髪を輪ゴムで一つにくくった貧しい身なりの私を見て安井先生が掛けてくださった第一声です。それが60年近くに及ぶ安井病院とのお付き合いのはじまりでした。「お金のことは言わんできえ。早く家帰って娘さんの頭冷やして待つと、すぐに行くから」先生はそれから毎日来てくださいり、やっと子供に笑顔が出て「もう安心やで」と言われた時には涙が出るほどうれしかったのを憶えています。その後、病院に友の会ができた時、一生懸命させてもらいました。今も患者さんや地域にとって良い病院として発展してほしいという気持ちでいっぱいです。50周年おめでとうございます。

病院初代院長の安井信雄先生は吉田下大路町で約2年間の夜間開業ののち、1937年10月、左京区田中野神町に今日の病院の土台となる安井医院を開設。当時、保険患者は全患者の1~2割と貧困層の多かったこの地域で「お金はある時に払えばええ」と命は平等を信条に苦労をいとわない地域の医師として第一歩を踏み出しました。

今でも第二中央病院を「安井さん」と呼ばれる地域の方が多いことからも地域になくてはならない存在だったことが伺われます。

また、安井信雄先生は終戦後の混乱の中で、単に医療だけでは解決できない様々な矛盾にぶつかり、それを打開するためには政治を変えることが必要と、市会議員選挙に立候補。京都で初めて日本共産党の市会議員が誕生しました。

原点

「金持ちも貧乏人もわしのところでは同列の患者や」人を治し、世直しにつくした安井信雄先生

病院開設の頃

自分たちの手で病院をつくるろう！

1000人の協力と安井信雄先生の決意で病院開設

病院創立の頃の職員一同

全体会議で報告する
安井信雄元院長

気軽に往診する安井信雄元院長

1955年（昭和30年）公益法人信和会の設立が認可され、同年7月11日に安井病院開設。安井信雄先生の決意を受けて個人所有から集団所有に移行し、多くの方の10円、50円の積み立てで病院化が成功しました。病院開設と同時に全日本民医連（全日本民主医療機関連合会）に加盟。民医連はちょうど綱領策定の議論が活発に行われ、「国民の要望に沿う親切で良い医療に徹しよう」「国民と手を結んで医療と健康を守ろう」という二つの綱領が決められました。安井信雄先生は京都民医連の三代目の会長に就任し、以降12年にわたり京都民医連の発展のために尽力してきました。



養正小学校で平和と映画のつどい

1950年代



安井病院 元事務長
藤井 洋一

京都民医連第二中央病院は前身である社団法人信和会安井病院のあゆみを受け継いで、今年50周年を迎えました。私は信和会の開設、病院の創立から関わってきたものの一人として、今日の法人の事業活動に触れ、また病院の姿を見て心より喜んでいます。

一言、感想を書いてほしいとのことですので、草創期のころのあらましの様子について述べたいと思います。

信和会・病院が活動を始めた1955（昭和30）年は、アジア・太平洋地域での侵略戦争に日本が敗れてちょうど10年がたった時でした。戦後の荒廃・疲弊した社会・経済が漸く復興しつつあり、国民の暮らしにも平和がもどりつつある時でした。

しかし、当時の働く人びとの暮らしはまだ、その日その日の糧を得るだけで精一杯で、病院周辺の地域では医療機関で受診する際は、日雇健康保険や生活保護が多く、まだ国民健康保険もなかったので、私費扱いの患者さんも

多数でした。地域の人びとにとって医療を受ける権利は保障されず、遠い存在でした。

安井病院（現・京都民医連第二中央病院）はこの地域の方々の“いつでも安心して良い医療が受けたい”という切実な願いと強い期待のもとで、病院建設資金の基金協力や患者紹介など物心両面にわたる励ましをうけて作られました。

同時に、京都民医連に加盟し、「働く人びとの医療機関」として地域の方がたの医療と健康を守るために日夜をわかつたず活動してきました。私はいま、当時病院作りに協力して下さった患者さんや地域の方がた、また労苦を惜しまず医療活動に専念してきた初代院長・安井信雄先生や副院长・山本弘先生をはじめとする職員の皆さんのお姿を思い出しつつ、この一文を書いています。

私はこのたび、法人及び病院の半世紀を記念する機会に会えたことを嬉しく思うとともに、50年に亘るあゆみを通じて今日の成長、発展に盡してこられた全ての関係者に対して心より敬意を表します。

信和会開設・病院創立50周年　おめでとうございます。



小児科山本副院長



伊勢湾台風に医療団派遣



1956年健保改悪反対闘争 左京醫師会の隊列に参加

年表

年度	社会情勢	病院・信和会の事業	その他の医療活動・社会保障の取り組み
1955(S30)	森永ヒ素ミルク事件	社団法人信和会設立 第一次病院建設のための募金始める 7月11日 安井病院開設、ベッド数40床 開設時の診療科 内科、外科、小児科、産婦人科、放射線科 全日本民主医療機関連合会に加盟	
1956(S31)	健保改悪反対闘争		胃腸のX線透視始まる
1957(S32)		ベッド数70床に増床	安井病院労働組合設立
1959(S34)	小児麻痺集団発生 伊勢湾台風	吉田健康会設立（友の会の前身）	いっせい地方選挙、安井信雄元院長市議当選(4選) 地域における健診活動開始 伊勢湾台風による水害の救護班を送る

新たなる始動

社会運動の高揚、医療の高度化の中で
模索の医療、新たな発展をめざし始動

10周年記念の集い



創立10周年での
故鶴川知事

社会の民主的運動の高揚と医療技術が進歩していく中、病院として日常医療活動をどのように進めていけばいいか、人づくりをどうしていけばいいなどを模索の中で切り拓いてきた時期です。1961年に全日本民医連の総会で現在の綱領が確定されました。その綱領は全職員を励まし、献身的な努力が始まりました。そういう中、日々の医療活動では様々な改善が必要な状況でした。100床化を行った病院は新たな発展計画の策定へと進みました。



1965年 知恩寺
健保改悪反対左京集会



安井信雄元院長7期にわたり市議員に当選

1960年代



左京老後保障をすすめる会
代表 浦本 信子

地域住民の暮らしや医療の拠りどころとして安井病院が左京区飛鳥井町に設立されて、50年が迎えられたことをわが事の様に喜んでいます。

創立当初病院は高野中学校区の平和と民主主義共斗会議に参加し、病院を中心に様々な要求運動が進められていました。

出町柳から八瀬へ向けた市街地を通り抜ける叡山電鉄の万里小路通りにある有人踏切りが無人化されることについて地域住民の反対運動が改善を勝ち取り、東大路通りの横断歩道信号設置等についても住民の要求あるところ病院ありで先代の安井信雄先生先頭に当時事務の藤井氏の協力指導を受けて頑張りました。医療の面でも「他の病院ではお金がないと診てもらえないかったが、病気を治してもらった」等今でも語り草になっています。昭和37年頃、「左京生活と健康を守る会」は病院と協力して健康診断を行いました。会の組織基盤づくりに大きく役立ったのではないでしょうか。昭和52年安井病院友の会発足とともに私は代表委員として参画しました。昭和46年から18年間、信和会法人の理事・監査等に加わり、あれから病院の名称も新たに京都民医連第二中央病院として名実ともに地域住民の希望の星として大きく花開きました。おめでとうございます。



南館建設



当時の病院風景



外来の様子

年表

年度	社会情勢	病院・信和会の事業	その他の医療活動・社会保障の取り組み
1960(S35)	安保闘争	第1次第3期工事完了（3、4階増築、総ベッド数108床） 救急指定病院となる	病理検査始まる 胃カメラによる診断法開始
1961(S36)	国民皆保険実施	盛林診療所、川端診療所再建へ職員派遣 皮膚科、物療科新設	
1963(S38)	老人福祉法公布	ベッド数11床増、合計119床	
1964(S39)	米軍ベトナム北爆 原水爆禁止世界大会京都で開催	東山診療所へ医療支援	
1965(S40)		院内保育所設置 京都民医連東プロック結成	社会保障改悪反対左京連絡会結成
1966(S41)		結核外来新設	京大保育所嘱託医受託
1967(S42)			いっせい地方選挙、安井信雄元院長市議当選(6選) 第1回日常医療総括会議（腹膜灌流のまとめ）
1968(S43)	インターーン制度廃止	病院建設に伴う新しい発展計画決定 発展計画委員会発足 地域募金活動開始 川端診療所、東山診療所の信和会加入	
1969(S44)	東京都で老人医療無料化	精神神経科開設 新館南にて外来診療部開始 第2次第1期工事完成（南館1階2階新築、ベッド数204床）	

土台

第2次病院建設と日常医療活動の前進で 現代の土台を築く



1978年 南館完成 242床

70年代に入り、「医療内容の充実向上と親切でよい医療を」をモットーにした総事業計画を策定。1976年に「80年代を展望した医療活動方針」を決定。病棟改修計画、患者会の設立をはじめとした慢性疾患管理活動、救急医療の強化、周辺医療機関との交流、診断基準の策定などがすすみました。今日の様々な活動の基礎を築いてきた時期と言えます。1976年に安井信雄院長が逝去、足立道五郎先生が院長に就任しました。



北館に掲げた憲法たれ幕



手術室

1970年代



元看護婦
西原 はる

私は昭和27年、上京区の柏野診療所の再建に携わったのが最初でその後定年まで民医連で働き続けることができました。今、病院開設50年で思うのはほんとに患者さんや地域の方に支えられてきたなということです。そして看護婦として多くの人、特に患者さんから学ばされたことが財産となっています。安井病院開設の時、50円、100円の募金に込められた思い、個人医院から集団所有に変える時の地域の方の思い、それらひとつひとつ事柄に本当に学ばされました。悩みはやはり本当にいい医療、行き届いた看護をしたいと思っても職員数が少なかった点です。これは今もそうだと思いますが、低い診療報酬の中大変だと思います。時代も変わり、医療の専門分化も進んでいます。でも患者さんと共に医療をつくるという視点は民医連の原点だと歴史を振り返り思います。それは今から思えば患者さん、職員同士、何でも言い合える信頼関係を大切にしてきたということだと思います。これからもそのことを守り抜いて一層の発展を期待いたします。

第7回日常医療総括会議 入院医療充実のために



総括会議
年1回全職員で医療方針を検討



患者会



1973年第2次建設第2期着工 透析室オープン



よりよい地域医療づくり目指して友の会結成総会

年 表

年度	社会情勢	病院・信和会の事業	その他の医療活動・社会保障の取り組み
1970(S45)	安保自動延長		いっせい地方選挙、安井信雄元院長市議当選(7選)
1971(S46)			最初の患者会となる高血圧患者会結成
1973(S48)	国の老人医療無料化実施	第2次病院建設第2期工事起工 信和会近畿高等看護学校設立（その後京都保健会へ）	
1974(S49)	統一労組懇結成	人工腎臓部設置	各検査、放射線機器の更新で大量処理可能に
1975(S50)	ベトナム戦争終結	創立20周年のつどい	
1976(S51)	ロッキード事件	京都民医連の外科研修センター病院として発足	安井信雄元院長逝去、享年69歳 第1回全職種の参加する症例検討会開催
1977(S52)			安井病院友の会発足
1978(S53)	京都革新知事継続ならず	第2次病院建設第2期工事完成 ベッド数242床 外科外来部門より中央手術室が独立	

厳しい医療情勢

法人、京都民医連内の役割りを深め、第3次発展計画を策定。経営的には打撃

安井病院の第3次発展計画は1985年12月より検討が始まり①医療活動を総合的に一層進める。②政府の医療破壊に対し闘う体制の強化。③京都民医連の長期計画に寄与する。の3点を基本的考え方として具体化がはからされました。改修と転用等を繰り返さざるをえない施設状況の改善。厳しくなる医療情勢と経営環境の打開。医学・医療の進歩から10年・20年先の病院機能を考える視点を提起しています。

腎、透析分野の展開を柱に位置付け、整形外科の開設、機器設備の充実等がすすめられました。1985年には、第一回左京健康まつりを開催、7000名が集いました。その一方で、政府の医療費抑制政策のもと、入院医療等は打撃を受け、経営的には大変厳しい状況となりました。

左京区内の団体・個人の方と共に左京健康まつりを開催
7000名が集いました



高血圧患者会、糖尿病患者会の合同健診



なかよし会

1980年代



元院長
足立 道五郎

私は満州の関東軍軍医で勤務中終戦になり、ソ連軍の捕虜、続いて中国の解放軍に留用され1953年にやっと帰国しました。妻が野神町の安井医院に就職でき、院長の安井信雄先生に初めて面識を得ました。私は医療技術の遅れに困って京大病院外科に復帰し、その後高松日赤病院に赴任しました。この間先生は出張の度ごとに御訪問いただいて新設された安井病院の状況や将来構想を話され、1967年に御要請に従って、同院外科に就職しました。初めて京都民医連に属して、当時の安井院長や山本副院長のもとに看護師さん、職員の方とも親しくなり、手術数も多く、非常に楽しい勤務ができたことを思い出します。

その後、院長・副院長の逝去、蜷川府政の終焉があり、日本の政治や医療情勢の悪化が年々激しくなり、私たちも病院・民医連も悲戦苦闘が続きました。併し極めて多数の患者様と地域の方々と親密な関係と熱烈な御応援をいただいて、努力して現状を乗り切ってまいりました。私が職を離れて既に10年を越えました。京都民医連と共同組織全体の力で安井病院も第二中央病院として発展してござましたが、政治も医療も情勢はさらに悪化しています。更なるご奮闘と発展を願ってやみません。



1987年
京都民医連のセンター病院
が中京区にオープン

医療、社会保障にとって
大きな転機となった80年代



多くの市民に訴えました



健康のこと社会保障のこと
多くを学ぶ友の会



創立25周年

年 表

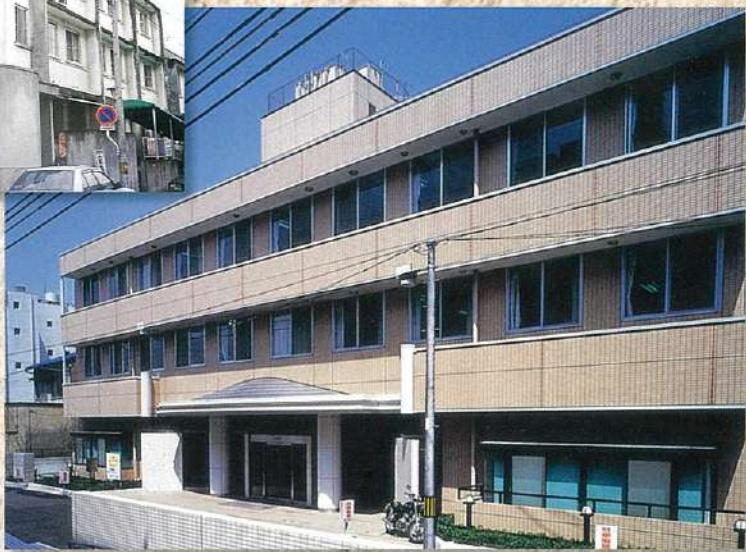
年度	社会情勢	病院・信和会の事業	その他の医療活動・社会保障の取り組み
1980(S55)	富士見産婦人科事件	創立25周年記念のつどい（教文センター） 消化器外来開設	人工腎臓患者会「しんあい会」発足
1981(S56)	6.1診療報酬抜本改訂 第二次臨調		京都府救急医療情報システムに参加
1982(S57)	老人保健法公布		左京救急隊との第一回懇談会
1983(S58)		整形外科外来開設	
1984(S59)		大宅診療所開設（山科区）	
1985(S60)	健保、医療法、老人医療 改悪反対運動	創立30周年のつどい 市内2次救急病院群輪番体制病院となる 整形外科病棟開設	第一回左京健康まつり開催（7000名参加） 知恩寺
1987(S62)	老人保健法改正	京都民医連中央病院開設（中京区）	CT導入、左京医師会員による安井病院見学
1988(S63)		第3次発展計画策定 HCU（14床）稼動	
1989(H1)	消費税3%、天安門事件	経営状況の悪化 精神科デイケア開設	

激動の時代

京都民医連第一センター病院としてスタート
様々な困難を乗り越え、「転換」をはかる



旧北館



新北館オープン



友の会吉田会長と安井浩元院長、京都民医連前田事務局長（当時）で最初の旧北館のとりこわしを



安井病院から病院名改称



あすかい診療所オープン

厳しい経営環境のもと地域や患者さん、職員にも依拠し京都民医連・法人内事業所の力も借りながら必要な機能分担や経営構造の「転換」を図つてきました。お年寄りを大切にする病院、保健予防・消化器疾患などの質の向上、法人としての診療所建設の具体化など総合的な医療活動は「転換」にとつて重要な方針でした。

かねてからの念願であった老朽化した北館の改築を1997年に実現。事業には多くの方からの期待が建設協力金という形で寄せられました。同時に病院名も変更し文字通り京都民医連の「第一センター病院」として位置付けられ、あらたに高齢者医療や消化器、呼吸器の取り組みをすすめました。

また、1999年には「あすかい診療所」「療養病棟」の開設へと、今日的な基礎を築く取り組みは今も地域の皆さんとともに息づいています。

1990年代



元院長
安井 浩

昭和30年・1955年、信和会安井病院は初代院長安井信雄の18年にわたる開業歴を土台に設立されました。「近代医学の恩恵から見放されようとする人達に無差別平等の精神で医学の発展に応じた適切な医療を行う」というモットーのもと、地域の人々から大きな支持と共感を得るとともに、全職員が一丸となって奮闘しました。たちまち外来患者数は300人を超え、5周年を迎えて病床を40から100に拡大し、その後、今まで地域の健康の担い手として奮闘し、今では病床242、診療科15を備え、信和会創立50年を迎えることとなりました。この間、97年に安井病院は京都民医連第二中央病院と改称し、地域の中核病院として、左京区では大きな役割を果たしております。

病院創立時、私は京大医学部の学生でした。この50年は医師として

の私の生涯とともにあり、病院の歴史をつぶさに見てまいりました。困難も、喜びも職員・患者さんとともに多くの思い出があります。

私事になりますが、小児科で診て大人になり、結婚され、またその子供さんを診て、今も、年をとて診察に来られる方があります。めったに経験できない貴重で幸せなこと感謝しております。

86年、私は三代目の病院長に就任し、96年まで勤めさせていただきました。病院発足以来活躍してきた「健康を守る会」の歴史的発展として、病院友の会が活発に活動し始め、地域の医療の充実に向けて病院とともに多岐にわたる医療活動の受け皿として活躍して戴きました。90年代バブル崩壊の頃、病院は過剰の投資が十分活用できず経営上厳しい危機がありました。京都民医連の援助と指導のもと、これを克服すべく職員一丸となって奮闘しましたが、この時、地域の患者さんの中核として努力していただいた「健康友の会」には敬意を表したいと思います。



療養病棟開設



総合リハビリテーション



手術室



阪神大震災での救援活動



友の会の青空健康相談

年 表

年度	社会情勢	病院・信和会の事業	その他の医療活動・社会保障の取り組み
1990(H2)	湾岸戦争、バブル経済崩壊	作業療法室開設	
1991(H3)	老人保健法改正、ソ連崩壊	経営危機・京都民医連内支援	
1992(H4)	リクルート事件	「北館改築」の提起と第3次発展計画の総括 医療構想検討委員会の立ち上げ	
1993(H5)	京都市国保料値下げ 直接請求運動	北館改築建設協力金開始 訪問看護ステーション「たんぽぽ」開設 小児科、整形外科縮小 老人デイケア開設	
1994(H6)		法人機構改革 京都市在宅介護支援センター併設	
1995(H7)	阪神淡路大震災	京都民医連第二センター病院建設着手 「ありがとう北館・つくろう第二センター病院」集会	院外処方箋発行 ヘリカルCT導入 阪神・淡路大震災救援支援活動
1996(H8)		新北館オーブン 岩倉に洛北診療所開設 訪問看護ステーション「どんぐり」開設(東山区)	
1997(H9)	消費税5%、健保本人2割負担	京都民医連第二中央病院オープン(病院名改称) 泌尿器外来、眼科外来開設	MR稼動 カラードップラー EUS導入 新看護体系2：1看護に
1998(H10)		総合リハビリテーション施設認可 新設診療所(門前診療所)建設の提起	
1999(H11)		療養病棟(ベッド数50床)の開設 2000年問題対応のコンピュータの全面入れ替え 京都民医連あすかい診療所開設 ヘルパーステーション「こでまり」開設	

新たな歴史を

医療・介護の質の向上、地域医療連携で
地域の役割担う新たな病院づくりを



2004年 5名の研修医を受入れ（友の会の方と）



病棟は2002年回復期リハビリテーション病棟の開設で現在の急性期と療養、回復期リハビリの構成に。かかりやすい病院つくりの大運動を行い、病院探検をへて、2004年11月、日本医療機能評価機構による病院機能評価を受審、2005年1月に認定を受けました。今、京都民医連第二中央病院は多くの方に支えられ、大きく様変わりする医療介護の情勢のもと、地域の中での役割りを明確にして、地域の関係機関、医療機関との連携を深め、質の向上に努めて新たな歩みを始めています。



2000年代～今

安井病院 —— 京都民医連第二中央病院

歴代院長



1955(昭和30)～1976(昭和51)
安井 信雄



1976(昭和51)～1986(昭和61)
足立 道五郎



1986(昭和61)～1996(平成8)
安井 浩



1996(平成8)～2002(平成14)
鈴木 憲治

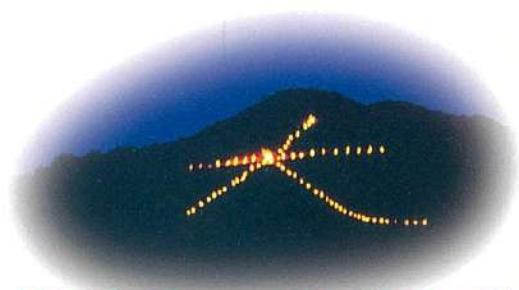


2002(平成14)～現在
門 祐輔




年表

年度	社会情勢	病院・信和会の事業	その他の医療活動・社会保障の取り組み
2000(H12)	介護保険法施行		診療情報開示開始 老人デイケアは介護保険に移行
2001(H13)	米同時多発テロ	整形外科手術再開、手術室大改装 訪問看護ステーション「ひまわり」開設 ヘルパーステーション「くるみ」開設（東山区）	外部団体による病院探検実施
2002(H14)	老人医療1～2割負担 中央病院細菌検査事件	回復期リハビリテーション病棟開設	医療福祉宣言確認 ボランティアセンターふきのとう開設
2003(H15)	米、英によるイラク攻撃開始 健保本人3割負担	高原デイサービス開設 泉涌寺湯デイサービスセンター開設（東山区）	健康友の会会員数が1万人に
2004(H16)	年金法改悪 新医師臨床研修制度発足	地域医療連携室設置、診療情報管理課設置 開放型病床5床登録 日本医療機能評価機構病院機能評価受審 臨床研修指定病院協力型として研修医の受け入れ	病院機能評価受審へ「改善」の大運動、病院の理念確定
2005(H17)	個人情報保護法施行	病院機能評価認定 大宅診療所改築着工	



1955—2005

安井病院—京都民医連第二中央病院

大文字 創立50周年記念号

民医連綱領

われわれの病院・診療所は働くひとびとの医療機関である。

一、われわれは患者の立場に立って親切でよい診療を行い、力をあわせて働くひとびとの生命と健康を守る

一、われわれはつねに学問の自由を尊重し、新しい医学の成果に学び、国際交流をはかり、たゆみなく医療内容の充実と向上につとめる

一、われわれは職員の生活と権利を守り、運営を民主化し、地域・職域のひとびとと協力を深め、健康を守る運動をすすめる

一、われわれは国と資本家の全額負担による総合的な社会補償制度の確立と医療制度の民主化のためにたたかう

一、われわれは人類の生命と健康を破壊する戦争政策に反対する

この目標を実現するためにわれわれはたがいに団結をかため、医療戦線を統一し独立・民主・平和・中立・生活向上をめざすすべての民主勢力と手を結んで活動する。

1961年10月29日
全日本民主医療機関連合会



社団法人 信和会 606-8226 京都市左京区田中飛鳥井町78 TEL075-712-9099 FAX075-706-5553



社団法人信和会

京都民医連第二中央病院

606-8226 京都市左京区田中飛鳥井町89
TEL075-701-6111 FAX075-781-9892

標準科目 内科、循環器科、呼吸器科、消化器科、神経内科、外科、肛門科、整形外科、精神科、皮膚科、泌尿器科、リハビリテーション科、放射線科、リウマチ科、婦人科、眼科、アレルギー科

病床数 242床

一般 192床(回復期リハビリテーション病棟51床)
療養 50床(短期入所療養介護7床)

総合リハビリテーション、通所リハビリテーション、精神科デイケア
京都市在宅介護支援センター併設
開放型病床(5床) 人工透析(10床)
救急指定、日本医療機能評価機構認定病院

京都民医連あすかい診療所

606-8226 京都市左京区田中飛鳥井町43-7

TEL075-706-6565 FAX075-706-6695

歯科

TEL075-706-6577 FAX075-706-6695

訪問看護ステーション たんぽぽ

606-8226 京都市左京区田中里ノ前町25-1

TEL075-712-9103 FAX075-712-9139

ヘルパーステーション こでまり

606-8226 京都市左京区田中里ノ前町25-1

TEL075-724-0173 FAX075-712-9139

訪問看護ステーション どんぐり

605-0971 京都市東山区今熊野樹ノ森町7-14

TEL075-561-6367 FAX075-561-6366

ヘルパーステーション くるみ

605-0971 京都市東山区今熊野樹ノ森町7-14

TEL075-561-6367 FAX075-561-6366

川端診療所

606-8384 京都市左京区川端通り夷川上ル新生洲町100

川端針灸治療院

606-8384 京都市左京区川端通り夷川上ル新生洲町100

TEL075-771-6298

東山診療所

605-0952 京都市東山区今熊野宝戒町43

TEL075-561-5500 FAX075-561-7362

京都民医連洛北診療所

606-0021 京都市左京区岩倉忠在地町529

TEL075-723-0960 FAX075-723-7650

大宅診療所

607-8186 京都市山科区大宅早稻ノ内町2

TEL075-581-5207 FAX075-581-5208

訪問看護ステーション ひまわり

605-0971 京都市左京区川端通り夷川上ル新生洲町104リバク鷺川Ⅲ 1階

TEL075-762-0036 FAX075-752-1052

高原デイサービスセンター

606-8242 京都市左京区田中高原町26

TEL075-706-6507 FAX075-706-6715

泉涌寺湯デイサービスセンター

605-0976 京都市東山区泉涌寺東林町20-16

TEL075-532-1021 FAX075-532-1032